



新村の人口	令和6年3月1日現在	世帯数	戸数
世帯数	1,315	戸数	1,492
男女	1,492	人数	1,599
合計	3,091	人数	

### 文化財講演会

## 安塚古墳・真光寺古墳の発掘調査からみえてきた新村の古代

3月3日松本市教育委員会文化財課埋蔵文化財担当の直井雅尚氏の講演会が開催されました。40年以上松本地区の発掘調査に携わってこられた、考古学の第一人者です。



直井雅尚氏

### お気に入りの1枚



松本電鉄上高地線の新デザイン車両

●新村の古墳（安塚・秋葉原古墳群）及び真光寺古墳は地面を掘り下げて石室を造った。無袖式石室である。  
●安塚5号墳と真光寺2号墳は奥壁に3枚の石を並べた7世紀後半の築造で一番古い。秋葉原3号・5号墳は小型の古墳（石室）で最後のタイプである。安塚2号・3号墳から出土した人骨（焼骨）は、新村遺跡（C区）住居址と同じ8世紀終わり〜9世紀初めのものである。  
●美濃国刻印須恵器（708〜720年に生産）が松本市

貴重な写真を交えた説明



●3〜6世紀までは奈良井川東側の開発（集落）が主だったが、7、8世紀は奈良井川西側にも開発が進み転機となった。西側の開発は、梓川の治水によって集落が出来、その上部の神聖な場所に古墳（墓域）を造った。この大開発によって、県内有数の松本地区に躍進した。  
●新村の古墳・遺跡について再確認した講演会でした。

## 感謝、運行1,000回 プチ送迎ボランティア

2月21日「プチ送迎ボランティア」が平成24年の運行開始から1,500回を迎えました。高齢化に伴い交通弱者を助け合う活動で利用者は延べ3,807名となりました。



節目を祝って記念写真

住宅アンケートで交通手段に困っている高齢者が多く、初代会長の故上原哲郎さんの発案で始めました。29年には総務省の「ふるさとづくり大賞」で当時の高市早苗大臣より大臣賞を受賞しました。  
自宅から医院やスーパーマーケットまでの送迎は「とても助かります」と感謝の声も。事務局長の原田裕さんは「住民の前向きな協力が新村の良さと」と振り返り、課題として、運転者も高齢化が進み、若い方や女性の参加が望まれるとのお話でした。

## 八束穂

松本大学での学生生活を振り返ると様々な気持ちが湧き起ってくるが、その中でも地域活動の経験を与えてくれた新村地区に対しての感謝の気持ちを強く感じて

いる▼元々、地域活動には興味があつたため、地域支援サークル「ゆめ」には何となく加入し、当初は活動に対する熱意も低かつた▼しかし、ある時、私の加入していた「茶房ひといき」の参加者の「栗しかったよ。またお話ししたい。」という言葉に地域活動に対する気持ちが高まり、「茶房ひといき」では副リーダーも務め、「寺子屋」の学習指導でもリーダーを務めるなど、自主的活動に参加するようになった▼そして、周りを気遣う力も養うことができ、人間的に大きく成長することができた▼そんな新村地区には、心から感謝の気持ちを伝えたい。

まちづくりの集い開催中

2月18日中央公民館(Mウイング)を会場に「未来へつなく私たちのまちづくりの集い」が開催されました。午前中は東京大学大学院の牧野篤教授の基調講演、午後は第1〜5分科会に分かれ、それぞれのテーマに沿って参加者同士の話し合いが行われました。

第4分科会は身近な地域で町内公民館を活用した実践事例の発表が行われ、神林地区「出張サロンin町内公民館」寿地区小池町会「子ども広場」第三地区四ツ谷東町会「防災と福祉の取り組み」が発表されました。四ツ谷東町会は平成29年から安否確認訓練を始め、令和2年からは各家庭の玄関先に黄色いタオルを掲げるという独自の方法を導入しました。この方法を取り入れたことで安否確認に要する時間を大幅に短縮することができたそうです。



発表に耳を傾ける

まつもと文化遺産巡り

1月25日8名の参加者で第二地区を訪ねました。深志神社社殿でお参りして境内を散策し、全久院では立派な仁王像の構える山門、多くの木彫仏像を堪能しました。偶然見つけた松本市上水道水源地に立ち寄り、源池の井戸へ向かいました。市内の名水のひとつのこともあり、水を持ち帰る方々にも出会いました。名水で喉を潤し、蔵の町中町を通り、縄手通りへ。昔よりは閑散とした縄手通りを楽しみ、四柱神社を参拝後、第二地区外の新松本市博物館へ。展示物や浮世絵展をじっくり見て、文化遺産巡りを堪能しました。



静かな全久院の木彫仏像棟

ものぐさ大学・大人の社会見学

〜寒天製造工場の見学〜

2月29日、参加者23名で茅野市のイリセン寒天製造工場の見学・体験をしました。寒天作りには厳しい冷え込みと乾燥した天日が必要ですが、近年の気候変動の影響を強く受けています。しかし、諏訪の寒天には「きれいな水がある。この地だからできる産業だ。」と社長の茅野さんは語っておられました。

江戸時代に旧玉川村(茅野市)の小林糸左衛門が関西から持ち帰り、出稼ぎに代わる冬場の産業として広めた寒天産業。その苦勞にも思いを寄せることができました。

寒中に天の助けを借りて作られたことで『寒天』と呼ばれるようになり、京都の寺の精進料理には今日でも欠かせない食材となりました。

様々な課題に向き合いながらも工夫と努力で製造を続けておられることに感謝と敬意を心に刻み



寒天作りを体験

寒天作りの支えとなるべき課題を考えた日でした。

南極に魅せられて

1月20日新村公民館で「あたらしの郷協議会学びの友部会」主催で、安塚出身で4回も南極観測隊



南極クイズに挑戦する参加者

員として任務に就いた川久保守さんの講演会が30数名の参加で行われました。

川久保さん自ら撮影した写真からクイズ形式で南極の氷の厚さが富士山ほどの高さがあること、氷点下50度以下でオシッコをしてもつららにはならないなど楽しく興味深く解説、ペンギンが海中から勢いよく飛び出してくる動画など、未知の世界のお話がたくさん、質問時間にはオーロラや昭和基地の設置のいきさつなど、興味は尽きないほどでした。

南極の寒さに比べれば松本平の寒さなんか大したこと無いなと帰宅しました。

第36回 冬季室内競技大会

2月4日芝沢体育館で第36回冬季室内競技大会が開催されました。午前中は綱引き、午後は卓球です。4年振りの町会対抗競技でしたが、試合が始まるとコロナ禍前と同様に熱い戦い、熱い応援が繰り広げられました。

綱引きの部 (6町会参加)
優勝 下新北
準優勝 上新西
3位 南新東



ヨイショ!ヨイショ!

卓球の部 (4町会参加)
優勝 山王
準優勝 下新南
3位 下新北



真剣勝負が始まる